

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	奥田 ゆう
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	講師
在籍年	4 年

教育の責任

学科の専門教育において、野生動物学分野の教育を一貫して担当する。具体的には、学部 2～6 年生を対象に、野生動物学、国際野生動物管理学、国際動物関連法規、生物多様性保全論の 4 科目を開講する。獣医看護保健学科を含む学生に対し、野生動物の生態、管理法規、保全戦略を体系的に指導し、専門スキル向上に寄与する。

教育の理念

野生動物学の教育を通じて、学生が学問の楽しさを実感し、自ら学ぶ意識を育むことを目指す。また、獣医を目指す学生に対し、獣医学とは異なる視点から動物を捉えることで、自身の獣医師としての立ち位置をより明確に確立させ、人と動物の共存に貢献する実践者を育成する。

教育の方法・方針

単に大学内における教育だけでなく、自身が動物園・水族館の方をはじめ、博物館、高校教員、教育に関わる各種研究活動等との連携教育にも強い関心を持って進めている。授業の構成においては、教科書の内容をそのまま教えるのではなく、関連した知識等と結びつけながら授業を展開する。自身の研究経験（比較解剖学、動物遺伝学、博物学）、アジア山岳地帯やモンゴルの在来家畜の遺伝学的調査、博物館学芸員としての勤務経験等を講義内容に積極的に取り入れ、学問・研究を身近に感じさせる教育を実践する。常に学生の反応に注意を払い、どこがポイントになるのか、どこに興味があるのかをフィードバックしながら授業を実施し、獣医学部では聞けない多角的な視点を提供して、学生が物事を多面的に考える力を養う。これにより、講義後のディスカッションが活発化するなど、主体的な学びを促進している。また、動物に対する豊かな感性を醸成するには、バーチャルな情報ではなく、多様な実体験が必要不可欠だと考えている。野外・室内での観察機会や標本資料の拡充を図り、実物体験をより多くの学生に届け、講義資料の継続的ブラッシュアップにより、教育の質を一層高めていく。

教育の成果

授業アンケートでは「楽しかった」「ためになった」という感想が非常に多く、自ら学ぶ意識の醸成に成功する。興味を持った学生たちが自主的に標本作製や動物の解剖に参加するようになったほか、ゼミのほとんどの学生が学会発表を行い、数名は国際学会での発表も行うなど研究活動が活発化している。また、動物園就職者や野生動物関連の職を希望する学生が増えてきており、キャリア選択の多様化に貢献している。これらの成果は、実物体験を通じた感性向上の効果を示している。

今後の目標

学生の自立学習をさらに促進するため、海外を含む研究機会・環境（フィールド実習、国際共同プロジェクト）を積極的に提供する。現在も博物館・水族館・動物園との交流を進めているが、博物館や動物園、水族館との連携プロジェクトを立ち上げること、また、学科だけでなく全学のさまざまな教員と連携して、野生動物教育を広げていく。これにより、大学全体での野生動物教育の基盤を強化し、より多くの学生に多角的視点を届けたいと考えている。

根拠資料

シラバス、回収した質問紙、授業アンケート